

令和4年度 旭川大雪圏域連携中枢都市圏ビジョン懇談会 会議録

○日時：令和5年3月16日（木）午前10時00分から午前11時30分まで

○場所：旭川市職員会館3階 6号会議室

○出席者

・委員（8名）

平井義正委員，渡辺多賀志委員，大矢二郎委員，片山兵衛委員，武田勉委員，西畑雅仁委員，井口真幸委員，竹部修司委員

・オブザーバー（8名）

鷹栖町総務企画課企画広報係 平田係長，東神楽町まちづくり推進課 佐藤課長補佐，当麻町まちづくり推進課企画商工係 横山係長，比布町総務企画課まちづくり推進室地域政策係 尾張係長，上川町地域魅力創造課地域魅力創造グループ企画広報係 太田主任，東川町企画総務課企画財政室 柳澤主任 美瑛町まちづくり推進課 宮崎主事，上川総合振興局地域創生部地域政策課 坂本課長

・事務局（4名）

旭川市総合政策部 熊谷部長，政策調整課 村尾補佐，大島主査，秋保

○会議資料

・次第

- ・資料1 令和4年度 旭川大雪圏域連携中枢都市圏ビジョン懇談会 出席者名簿
- ・資料2 旭川大雪圏域連携中枢都市圏ビジョン懇談会設置要綱
- ・資料3 旭川大雪圏域連携中枢都市圏ビジョン懇談会の会議運営（案）
- ・資料4 連携中枢都市圏構想の概要
- ・資料5 旭川大雪圏域連携中枢都市圏に係る今年度の取組状況
- ・資料6 旭川大雪圏域連携中枢都市圏ビジョンの変更内容
- ・資料7 旭川大雪圏域連携中枢都市圏ビジョン（変更案）
- ・資料8 連携中枢都市圏構想推進要綱

○会議内容

1 開会

2 委員紹介（資料1）

各委員，各町からの出席者の紹介

3 懇談会

（1）座長，副座長選出（資料2）

○事務局から説明

事務局の村尾補佐が仮議長となり，座長の選出を行った。

事務局一任となり，事務局は大矢委員を座長に推薦し，了承された。

座長は，副座長に竹部委員を選任し，了承された。

（2）会議の運営について（資料3）

○事務局から説明

（3）連携中枢都市圏構想の概要について（資料4）

○事務局から説明

（4）議事

ア 旭川大雪圏域連携中枢都市圏に係る今年度の取組について（資料5）

○事務局から説明

○委員からの質問・意見

（座長）東京事務所は東京のどこに所在するのか。

→（事務局）東京都千代田区平河町の日本都市センター会館の12階にある。27の自治体が入っている。

イ 旭川大雪圏域連携中枢都市圏ビジョンの変更について（資料6，7）

○事務局から説明

○委員からの質問・意見

（委員）ゼロカーボンの推進について、各自治体で二酸化炭素排出量などはどのように把握・算出するのか。

→（事務局）環境省等からデータの提供があり、それを基に自治体単位で排出量を算出している。2050年には排出量ゼロを目指して、各自治体に取り組んでいる状況である。

（座長）ゼロカーボンにしていくための具体的な取組は。

→（事務局）本市においては、グリーンアンバサダーによる普及啓発活動などがある。

（座長）具体的にはどのような活動のイメージか。

→（事務局）身近な例としては、省エネや節電があり、小さな取組がゼロカーボンに繋がっていき考えている。

（座長）新規就農者等の育成には、林業従事者も含まれるのか。

→（事務局）本取組には林業従事者は含まれてない。既存の連携事業の一つである「31.林環境を活用した事業」に含まれている。ゼロカーボンの達成には重要な取組と考えており、一環として桜の木の植樹などを進めている。

（座長）森林を育成することは多面的な効果が期待できるので、総合的に連携してゆくことが重要だと思う。

（委員）ゼロカーボンの取組として、食ベマルシェなどのイベントでプラスチックを使用しないことなどを実行しPRするとよい。情報発信が重要だ。

（委員）多様な生涯学習機会の拡充の取組について、成果指標の現状値が0の理由は何か？また取組内容を教えてほしい。

→（事務局）取組内容は、生涯学習機会の拡充を図るため、圏域自治体を実施する生涯学習講座の相互情報提供を行い、圏域住民を対象とする広域的な講座等を実施するものである。また、令和3年度は取組を開始していなかったため現状値が0となっている。

（座長）学習したいと考えている高齢者は多い。多くの市民・町民に学習機会を設けて欲しい。

（委員）新規就農者等の育成と移住定住の促進は連携して進めて欲しい。

（座長）近年、農業従事者が減り、空き家が多くなってきた。各自治体の課題であると認識している。新規就農者等の育成の取組が状況の改善に繋がるといい。

→（事務局）事業担当者会議においても各自治体の課題を共有できた。今後も継続して取り組んでいきたい。

（座長）ドローンの活用など営農技術が発達し、農業自体も大分様変わりしている。変化に対応する若い人が増えると良い。

→（事務局）1世帯あたりの農業面積が増え、スマート農業など省力化が進んでいる。若手農業従事者との意見交換会に立ち会う機会があったが、彼等も農業を継続するため様々なことを考えている。本市としても支援していきたい。

（委員）現状値が目標値を超えている取組については、目標値を修正するのか。

→（事務局）状況に合わせ、上方修正を考えたい。

（委員）防災に関する連携事業があるが、防犯に関する連携事業がない。情報発信など横のつながりが重要だと思うので、連携事業として考えてもよいのでは。

→（事務局）現状、防犯に関する取組はない。今後、関係部とも課題を共有する。

（委員）防災体制の整備の取組において、自治体職員による研修を行っているが、関係する部分があれば、社会福祉協議会も研修の中に入って受講出来る体制があっても良いと感じる。

（委員）新規就農者等の育成について、日本は食糧自給率が低く海外に多くを依存している状

況であり、1次産業の推進のためにも益々大きなテーマになってくると思う。色々な農業形態を考慮した取組、また農協や土地改良区などと連携した取組を検討してほしい。

(座長) 新たな取組としてヒグマ対策の推進があるが、エゾシカへの対策や、野生生物との共生などもテーマになり得るのではないか。

(座長) 鉄道の利用促進の取組について、富良野線は沿線の景色が良く、美瑛の丘など観光の鉄道という意味では高いポテンシャルを持っている。ノロッコ号などの一部でもよいので車内に自転車を持ち込めるサイクルトレインが出来れば利用客が増えるのではないか。

→(事務局) 富良野線における国の支援は令和5年度までで、現在、アクションプランに基づき、沿線自治体とJRが様々な利用促進の取組を行っている状況。担当部局と情報共有したい。

(座長) 旭川市民で70歳以上の高齢者は市内なら1乗車100円で利用出来る「寿バスカード」の制度がある。これを広域で運用出来ないものか。日頃、バスを利用しているが、乗客が少なく、今後、バス会社の経営が維持出来るのか不安になる。一方で、「バスキタ」など、バスを利用する上で便利なアプリが使えるようになっているのは好ましい。

→(事務局) バス路線を維持するため、国の交付金等を活用し支援している状況。今後も継続して、持続可能なバス路線に向けた検討やバス乗務員を確保するための支援事業を行っていく。

(座長) 東川町において人口が増えている要因はなにか。

→(委員) 水や空気など環境の良さと写真や家具など特徴のある文化を核とした町づくりがトータルとして上手くマッチングした成果ではと考える。あわせて、若い世代への子育て支援策や、高齢者が住みやすく、また生涯住んでもらえるための支援策を実施しているからだと思う。

一時期は農業の後継者が0のときもあったが、現在は、Uターンしてくる人が年間5、6人はいる。「地域おこし協力隊」の制度も活用している。

ウ 今後の新たな広域連携に向けた意見交換について
イの議題と同時に取り扱った。

(5) その他
特になし

4 閉会

以 上